

カンボジア スパイリエン州農村女性組合設立支援事業
2002年度完了報告書
(2002年7月1日～2003年6月30日)

1 配分事業の総費用額等

総費用額	6,765,997 円
(内訳) 自己資金額 (総費用額-配分額)	3,686,997 円
自己資金額の割合 (自己資金額÷総費用額)	54.49%

2 援助事業の実施状況及び効果

【事業概要】

スパイリエン州で農村部の女性を対象に開始された当プロジェクトは、本年度で4年目にあたる。当団体は以前元ホームレスの再定住地での自立支援に関わっていたため、ホームレスを多く輩出しているスパイリエン州¹を「貧困緩和、ホームレス化防止」の本プロジェクト地に出出したという経緯がある。

スパイリエン州では主に天水による稲作が行われているが、土壌がシルト質²で酸性分を含み、特に南部では森林資源などを有さないことから土壌養分も不足している。このため、米の収穫量は平均で10アールあたり120kgと低く³。また、食糧自給率も低く、チューティール地区プーンコ村で2002年秋に行った調査によると、米の自給率が6ヶ月に満たない世帯数は全体の43.6%にも⁴。

食糧や農業収入の不足から、都市への出稼ぎは、村人にとって欠かすことのできない収入源となっている。多くの場合、都市へ出稼ぎに行くのは男性で、その結果一年を通して家を守るのは女性の役割となっている。言い換えればふだんむらを守っている女性が地域開発の大きなカギを握っていると言えるが、歴史的、文化的要因から、女性同士のネットワークや地域開発の担い手となることは殆どなかった。

こうした現状から、当団体はこの地域で地域開発の主角を担うべき女性達に焦点を当て、女性同士のコミュニケーションを活発にし、活動経験を通してエンパワメントを図り、問題解決できる人材や組織の育成に取り組んできた。

1999年、そして2000年に活動を開始した先行の2村に於いては、まず当団体が村内での「女性

¹ 「プノンペン市内の路上生活者レポート」(社会福祉省:1996年)によると、プノンペン市の路上生活者出身地の第4位がスパイリエンとなっている。更にプノンペンに隣接する州を除くとスパイリエンが第1位となる。

² 砂と粘土との中間の細かさを有する土。養分が抜けやすく水も溜まりにくいとされる。

³ カンボジア商業省によると2000年から2001年における米の収量は国内平均で1ヘクタールあたり1.87トンとなっている。http://www.moc.gov.kh/sectoral/rice_study/chapter3/food_security.htm

⁴ 当団体によるスパイリエン州チューティール地区プーンコ村基礎調査より。

組合」の設立を促したところ、2村ともほぼ全世帯の女性が加入する大組織となった。設立後は、組合員から選出されたリーダーにより運営が進められ、当団体も協力する事業として家庭菜園、家畜飼育、貯蓄等の普及活動が行われた。現在は組合が独自の活動も始めており、最貧困家庭支援、米銀行などを行っている。

平成13年度に活動を開始した2村、そして本年14年度より活動村となった2村においては、先の2村でリーダーの負担が大きい等の問題点も出始めていたことから、組織の枠組みも女性たちが自由に決定できることとし、グループ単位で始めることもできる方式も提案した。最初のグループ結成からすでに1年以上が経過しているが、どのグループも活動資金を地道に貯蓄し続けており、その資金を元手にした活動も徐々に成果が出始めた。

仲間同士の小規模な単位で始めることもできるグループ活動には、当団体から直接的な資金提供を行っておらず、活動資金が女性たちで蓄えた資金だけとなるため少額で、女性組合のような大掛かりな活動を行うことはできないが、相互扶助の関係は組合より強い等の利点も見えてきた。今後は、組合、グループ両方のメリットを取り入れた方法が論議されている

1. 女性組合設立支援

【実施状況概要】

女性組合設立支援は、チューティール村（2村目）において次の4段階で進めている：

- 第一段階 女性組合発足のための準備期間
- 第二段階 女性組合発足
- 第三段階 プログラムの実施
- 第四段階 女性組合強化・自立運営指導

チューティール村

- 2000年度から活動を行っている2村目のチューティール村は、第四段階も終盤に差し掛かり、女性リーダーの統率力、運営能力強化を中心に、組合自立運営の為の組織力強化を目指してきた。

チューティール村活動概要

7月	女性リーダーミーティング 家庭菜園ボランティアトレーニング 家庭菜園ボランティアミーティング 家畜購入の為の貯蓄	1月	女性リーダーミーティング 最貧困家庭支援プログラム評価 米銀行米倉建設 米銀行デポジット支払い
8月	女性リーダーミーティング 家畜購入の為の貯蓄	2月	女性組合リーダー選挙 女性リーダーミーティング 家庭菜園トレーニング
9月	女性リーダーミーティング 家庭菜園ボランティアミーティング 家畜購入の為の貯蓄	3月	女性リーダーミーティング 女性組合構成についてのミーティング 家庭菜園トレーニング（全組合員対象）

10 月	女性リーダーミーティング 家庭菜園ボランティア研修 家畜購入の為の貯蓄 最貧困家庭支援受益者ワークショップ 米銀行話し合い	4月	女性リーダーミーティング
11 月	女性リーダーミーティング 家庭菜園トレーニング（全組合員対象） 家畜購入の為の貯蓄 貯蓄金満期、家畜購入 米銀行規約作り、話し合い	5月	女性リーダーミーティング 最貧困家庭ミーティング
12 月	女性リーダーミーティング 米銀行話し合い	6月	女性リーダーミーティング 女性組合評価のワークショップ 家庭菜園ボランティア研修 米銀行貸出

【活動実施内容詳細】

< 2村目 チューティール村女性組合： 2000年7月開始 >

チューティール村は女性組合活動開始から 3 年目を迎えた。家庭菜園プログラム、家畜プログラム、貯蓄プログラム、最貧困プログラムに加えて本年度から女性組合運営による米銀行プログラムも開始された。また、2月25日には組合リーダー改選が行われ、立候補者10名のうち7名が新リーダーとして選出された。3月10日には新リーダーによる組織作り、役割分担のミーティングが開催され、リーダー達は家庭菜園、最貧困家庭支援、といったプログラムごとに担当を決め、今後の活動がよりスムーズに行われるよう、その体制を強化している。女性リーダー月例会議、米銀行についての話し合いなど、既に当団体抜きでもプログラムを進めることができるようになっており、2003年10月の当団体としてのプロジェクト終了後も独自に活動を進めていくことが期待される。鶏銀行については現在も女性組合リーダーが話し合いを続けており、2003年中、または2004年にはプログラムを開始する予定である。

● 家庭菜園プログラム

家庭菜園プログラムは家庭菜園普及員主導で行われている。昨年度から引き続き、今年度もボランティアによる一般組合員へのトレーニングが開催された。

1. 家庭菜園ボランティアミーティング

7月11日、当団体が第一村目として活動を開始したプレイコキ村で家庭菜園ボランティアが主催し、「種の保存」についてのミーティングが開催された。チューティール村からも3名の家庭菜園普及員が参加し、種の選別、保存方法についてのグループディスカッション、「種を販売する場所が村にあった場合の利点」について意見交換を行った。家庭菜園を村に普及する上で、種取、保存は欠かすことのできない技術であり、チューティール村普及員たちも、一箇所に種を集め、保存、

販売できる場所を作ろうと意欲を見せた。

このミーティングを踏まえ、9月26日には前述の普及員3名と女性組合リーダー3名が集まり、村での種取、種保存について話し合いがもたれた。話し合いの中で、村人全員にとってアクセスの良い道沿いの普及員宅で種を保存、販売することが決定された。この日、当団体農業スタッフ（野菜栽培指導担当）が参加者に向けて「種の保存方法」についてのトレーニングを再度行った。

2. 家庭菜園ボランティアトレーニング

7月25日には5名の家庭菜園普及員と2名の一般ボランティア、そして2名の女性リーダーが参加して「トマトの育て方」についてのトレーニングが行われた。村で普及していないトマトは市場において高値で取引されている。トレーニングではトマトの育て方が当団体農業スタッフより説明され、苗の植え方については実践トレーニングが行われた。最後には参加者の家庭菜園の状況に応じてそれぞれ数本の苗が配布された。

10月24日には「大根の育て方」についてのトレーニングが開催され、家庭菜園普及員3名と女性組合リーダー数名が参加した。トレーニングの最後には大根の種が配布され、それぞれが自分の家庭菜園に大根を植えることとなった。

3. 家庭菜園トレーニング（一般組合員対象）

家庭菜園普及員による一般組合員対象家庭菜園トレーニングは、昨年度からの継続事業であり、全4回で予定が組まれていた。昨年度既に第一回、第二回のトレーニングを終了しており、本年度は第三回、第四回を残すのみとなった。

11月13日、家庭菜園普及員は一般組合員を対象に「大根の植え方」についてのトレーニングを第三回トレーニングとして開催した。トレーニングは午前、午後の2度に分けて行われ、合計66名の組合員が参加した。普及員は自分で描いたポスターを用いながら大根の植え方について丁寧に説明を行い、参加者には大根の種が配布された。

また、トレーニングの最後には、女性組合リーダーが「種グループ結成」について参加者に協力を呼びかけた。種グループについては9月26日の種取、種保存のミーティングの後も家庭菜園普及員、女性組合リーダー達が話し合いを重ね、積極的に準備を始めている。しかし6月末現在、種不足から活動開始には至っていない。

3月28日には第四回目トレーニングとして3名の家庭菜園普及員が「土壌改良についてのトレーニング」を一般組合員向けに開催し、21名の組合員が参加した。この中で普及員は堆肥、液肥、緑肥など土壌改良の方法を紹介し、堆肥の作り方について説明、実践トレーニングを行った。

4. 家庭菜園ボランティアフィールドトリップ

当初10月に予定されていた家庭菜園ボランティアのフィールドトリップであるが、2002年は雨が降りだすのが遅れ、田植え時期が例年より一ヶ月以上ずれ込んだ。こうした影響でフィールドトリップを延期したところ、乾季に入り、家庭菜園を継続する家庭が少なくなった。そのため、視察に適した場所がなくなったため、フィールドトリップは雨季が始まる時期までお預けとなった。5月にはプレイベン州にあるCEDACというローカルNGOのプロジェクト地をフィールドトリップ候補地として視察したが、「家庭菜園」と呼べるような場所がなく、ようやく6月25日、10名の家庭菜園普及員、及びボランティアが参加してスバイリエン州で活動するCRS(Catholic Relief Service)のプロジェクト地への視察が実現した。参加者達は複合農業を行っている家庭、果樹の苗木作りをしている家、畦で野菜を育てている家、そして菜園で混作を行っている家などを視察した。

●貯蓄プログラム

平成 13 年度から継続している貯蓄プログラムは、年度内に第 1 期貯蓄グループの貯蓄活動、第 2 期貯蓄グループ 7 ヶ月コースグループの貯蓄が満期を迎え、本年 14 年度に持ち越されたのは第 2 期貯蓄グループ 12 ヶ月コースに参加した 16 名のみとなった。グループメンバーは毎月 1 日にグループリーダーに貯蓄金を預け、グループリーダーがメンバーの貯蓄金を一括して女性組合リーダーに手渡すシステムになっていた。16 名全員が 11 月に無事貯蓄を終了し、10 名が鶏、6 名が豚を手にした。平成 13 年度から継続してきた貯蓄プログラムであるが、合計 88 名の組合員が貯蓄によって家畜を購入したことになる。

第 2 期貯蓄グループ（2001 年 12 月～2002 年 11 月）

コース	鶏貯金		豚貯金	
	グループ、人数	満期時	グループ、人数	満期時
12 ヶ月	2 グループ（10 名）	11 月	1 グループ（6 名）	11 月

●最貧困家庭支援プログラム

平成 13 年度の早魃に対する対策の一つとして 2002 年 1 月より開始された最貧困家庭支援プログラムは、平成 14 年度も女性組合の継続事業となっている。2002 年 12 月に終了した第一回支援では 9 名が、2003 年 1 月より開始された第二回支援では 7 名が支援対象となった。支援内容は大きく 4 種類に分けられる。1 つ目が収入向上活動資金として一定額を一年間貸し出す、いわゆるマイクロクレジットで 30,000 リエル（約 7.5 ドル）前後を無利子で 1 年間貸し出す。2 つ目がお年寄りや障害のある 3 家族に行う鶏の貸し付け。3 つ目が重度の精神障害を持つ女性に行うお米の支援。4 つ目が比較的軽度の精神障害を持つ女性が、砂糖など簡単な日用品を販売する活動の手助けである。第一回支援でマイクロクレジット、及び鶏の貸し出しを受けた家庭は 12 月に返済時期を迎え、全員が無事クレジットで借りたお金を返済することができたものの、鶏については、貸し出しを受けた男性の活動がうまくいかず、結局鶏を返済することはできなかった。第二回支援では 5 名がクレジットの支援を受け、残る 2 名がお米支援、及び日用品販売の手助けを受けている。

遅れていた田植えが一段落した 10 月 17 日、最貧困支援を受けていた家庭を集め、中間評価のためのワークショップが開催された。ワークショップでは、10 月現在の経済状態、収入向上活動の状況について報告が行われ、1 月に控えたクレジットの返済が確認された。

1 月 6 日、2002 年に最貧困支援を受けていた家庭が集まってプログラム評価が行われた。評価は女性組合リーダーのファシリテーションのもと行われた。そして評価、話し合いの結果、2003 年も引き続き支援プログラムが継続されることに決定した。また、2003 年は貸し出しを受ける家族数を減らし、かつ、各自のアクティビティーに応じてクレジットの金額に差をつけた。

5 月 15 日には最貧困家庭支援を受けている家庭のミーティングが行われ、支援開始後 5 ヶ月経った現状について話し合いが持たれた。マイクロクレジットを受けている家庭は野菜を作って販売したりお菓子作りをしたり、とこつこつと活動を続けており、今のところ順調に利益をあげているようである。

●米銀行プログラム

2001 年に見舞われた大干ばつの影響を軽減することを目的として、女性組合リーダー達は 2002

年より米銀行の開始を計画しており、「慎重に、堅実にプログラムを進めたい」という女性たちの希望により、2003 年からのスタートを目指すこととなっていた。女性組合リーダー、米銀行メンバー達は 10 月 10 日、米銀行設立の為の話し合いを行い、更に 11 月 12 日には米銀行の規約作りのミーティングを開いた。その後 11 月 14 日、12 月 5 日とミーティングを重ね、1 月 14 日には米銀行メンバーは 1 人 1 タウ（約 12kg）の米をデポジットとして預け入れた。その他チューティール村女性組合が準備した米などを合わせ、7 月には 1692kg の米を 25 名のメンバーに貸し出した。メンバーは収穫後となる 1 月頃、25%の利子をつけて米を返済することになっている。

II.女性グループ結成支援

【実施状況概要】

本事業女性グループ結成支援については、プーンコー村、サムラオン村（3 村目、4 村目）そしてニアレッテン村、チュックソー村（5 村目、6 村目）において次の 4 段階で進めている：

- 第一段階 グループ発足の為の準備期間
- 第二段階 グループ発足
- 第三段階 グループ活動の開始
- 第四段階 グループ強化、自立運営指導

- プーンコー村、サムラオン村では平成 13 年度より女性グループプログラムが実施されている。女性グループ結成支援では、当団体から活動に対する資金的援助は一切行わない代わりに、グループごとに一定の貯蓄、月例会議を継続し、6 ヶ月間活動を継続して一定の結束を得たグループに対しては「学習と交流の機会」を提供している。両村では最初のグループ発足から 1 年以上を経過し、グループメンバーは「貯蓄が継続できない」などの理由で減少してはいるものの、グループ結成による成果も出始めている。例えば、既に第四段階に入ったグループも多く、「組織自立」と言う面に於いては、比較的速いスピードで目標を達成していると言える。なお、本年度中にプーンコー、サムラオン両村で家庭菜園ボランティア育成を開始するはずであったが、2002 年は田植え、及び稲刈りが大幅に遅れたため、ボランティアの 10 月からの育成予定を先延ばししていたところ、両村とも新たな女性グループ結成があった。これらのグループリーダーの要望により、また先に結成されていたグループメンバーの了解を得て、2003 年に入ってから結成されたグループが 6 ヶ月目の貯蓄を完了するまでトレーニング開始は延期されることとなった。

プーンコー村、サムラオン村活動概要

	プーンコー村	サムラオン村
7 月	女性グループミーティング グループ貯蓄	
8 月	女性グループミーティング グループ貯蓄	PLA（グループ①） 女性グループミーティング グループ貯蓄
9 月	女性グループミーティング グループ貯蓄	女性グループミーティング グループ貯蓄

10月	女性グループミーティング グループ貯蓄 鶏購入（グループ①）	女性グループミーティング グループ貯蓄
11月	女性グループミーティング グループ貯蓄 フィールドトリップ（①、②） 豚3頭購入（②）	PLA（③） 女性グループミーティング グループ貯蓄
12月	女性グループミーティング グループ貯蓄 家畜基礎飼育講座（①、②） ワクチンワークショップ（①、②）	PLA（③） 女性グループミーティング グループ貯蓄
1月	女性グループミーティング グループ貯蓄 栄養基礎講座（①、②） 家庭菜園基礎講座（①、②） フィールドトリップ（①、②） 鶏、豚ワクチン摂取（①、②） 豚4頭目購入（②）	女性グループミーティング グループ貯蓄 フィールドトリップ（①） 鶏購入（①） 米購入,持ち寄り（②）
2月	女性グループミーティング グループ貯蓄 家畜ワクチン摂取（①、②）	女性グループミーティング グループ貯蓄
3月	女性グループミーティング グループ貯蓄 豚5頭目購入（②）	女性グループミーティング グループ貯蓄 フィールドトリップ（②） 家畜基礎トレーニング（①、②） ワクチンワークショップ（①、②）
4月	女性グループミーティング グループ貯蓄	女性グループミーティング グループ貯蓄 栄養基礎講座（①、②） 鶏ワクチン接種（①、②）
5月	女性グループミーティング グループ貯蓄 豚6頭目購入（②）	女性グループミーティング グループ貯蓄 家庭菜園基礎講座
6月	女性グループミーティング グループ貯蓄 女性グループ交流会	女性グループミーティング グループ貯蓄 女性グループ交流会

--	--	--

ブーンコー村 (3 村目)

ブーンコー女性グループ概要

	ブーンコー村①	ブーンコー村②	ブーンコー村③
メンバー数	10 名→7 名	10 名→9 名	9 名→6 名
貯蓄開始月	2002 年 6 月	2002 年 6 月	2003 年 2 月
貯蓄金	毎月 1,000 リエル (約 0.25 ドル)	毎月 2,800 リエル (約 0.7 ドル)	毎月 1,000 リエル (約 0.25 ドル)
活動内容	鶏飼育	豚飼育	—
活動予定		米銀行	豚飼育

●各グループ概要

1) グループ①

当初は豚飼育を目指していたこのグループは、貯蓄金額が少なく、全メンバーが豚を購入するまでには相当の時間を要することから、まずは鶏飼育からグループ活動を開始することとなった。10 月にはメンバー 1 人につき 1 羽ずつ鶏を購入して飼育を続けており、その後も貯蓄を継続している。比較的貧しいメンバーが集まったこのグループは、プノンペンへ出稼ぎに行ったり、貯蓄が継続できなくなったりして脱退するメンバーも目立った。しかし残ったメンバー達は、子供が病気になったメンバーに対して貯蓄金から 30,000 リエル (約 7.5 ドル) を薬代として貸し出すことを決めるなど、協力し合いながら活動を続けている。

2) グループ②

グループ②は、予定通り豚飼育を行うこととなった。1 1 月にはまず 3 頭の豚を購入、その後 2 ヶ月に 1 頭ずつ豚を購入し、各メンバーが順番に仔豚を手に入れている。6 月末現在、合計 6 名のメンバーがそれぞれ豚飼育を行っている。飼育の順番についてはメンバーが話し合い、1. まだ豚を所有していないメンバー、2. より貧しいメンバー、が優先的に豚を手にするようになった。このグループはまとまりが良く、活動開始当初からリーダーを中心に協力し合いながら活動を続けていた。今年に入ってからはリーダーが夫の病死、娘の事故、本人の怪我、自宅の火災、と次々と不幸に見舞われているが、メンバー達はリーダーを手伝ったり、薬を買ったり、火災で焼け出されたリーダーのためにカンパを募り家族を自宅に泊めてあげたりしてリーダーをよく助けている。

3) グループ③

グループ③の結成にあたり、1 月 28 日には PLA の復習、女性グループの意義について考えるワークショップが開かれた。これは、このメンバーの多くが昨年度行われた PLA には参加していたものの女性グループ結成の為にワークショップに参加していなかったため、女性グループ結成の目的を確認する為に開かれた。ワークショップは主にディスカッション形式で進められ、女性グループ結成の重要性、グループ活動について、などが話し合われた。最後には女性グループ結成の手続きについて全員で確認が行われ、2 月には 9 名がグループに登録した。

2月より貯蓄を開始したこのグループは、豚飼育を目指している。一月 1,000 リエル (0.25 円) と貯蓄額が少ない為、全員が豚を手に入れるまでには4年前後かかる計算になるが、貯蓄金がたまり次第随時豚を購入し、飼育を終了して豚を販売したメンバーは購入資金をグループに返還することとして、最後のメンバーが豚を購入するまでの期間を短縮するつもりだと言う。

●家庭菜園、栄養トレーニング

1月22日にはグループ①、グループ②の11名のメンバーを集めて基礎栄養講座が開催された。講座では、タンパク質、炭水化物、ビタミンという3大栄養素、その効用が紹介された後、2グループに分かれて野菜や肉などの食品カードのグループ分けが行われた。最後に参加者3名が選ばれ当日の夕飯の献立について尋ねられると、「ご飯と魚とキャベツの炒め物」といった優秀な答えが返ってきていた。

1月29日には家庭菜園基礎トレーニングが開かれ、グループ①、グループ②から14名のメンバーが参加した。講座では前週に行われた基礎栄養講座の復習のあと、家庭菜園のデザインについて話し合いが行われ、菜園の規模、フェンスの必要性、土壌、手入れの具体的な方法について話し合いが行われた。特に菜園のデザインについては、2グループに分かれ、家の敷地に見立てた紙の上に、事前に準備した井戸や家庭菜園の絵を貼り付けていき、どこに家庭菜園を設ければ水やり等労働が軽減されるか、などについて話し合われた。

●家畜飼育トレーニング

12月17日には6ヶ月の貯蓄を終え、鶏飼育を開始したプーンコー①のメンバーを対象に鶏飼育についてのトレーニングが開催され、7名のグループメンバーが参加した。ファシリテーターはプーンコー村担当のスタッフと州家畜局でTOT(村の草の根獣医を育成する養成員)として働く獣医で、参加者の経験を共有しながら良い鶏の見分け方、餌の内容、与え方、飼育方法、病気の予防、など、基礎的家畜飼育技術についてトレーニングを行った。参加者は鶏飼育についての新たな知識を得て、今後の鶏飼育に意欲を燃やしていた。

同じく17日に、同じ2名のファシリテーターで、豚飼育を開始するプーンコー②のメンバーに対して豚飼育の基礎についてのトレーニングが行われた。8名のメンバーが参加しこれまでの豚飼育で得た知識や問題点などについて話し合いを行った。

12月19日にはグループ①、グループ②からそれぞれ5名のメンバーが参加して家畜ワクチンについての基礎講座が開催された。この講座ではワクチンの紹介とともに、駆虫剤の必要性についても講義があった。後半は具体的にワクチンにかかる費用について計算し、ワクチンのマネジメントについて話し合いが持たれた。この講座の後、メンバーから家畜に対するワクチン摂取の希望があり、1月、2月には村の草の根獣医と協力して、豚の駆虫剤、豚、及び鶏に対するワクチン接種(サルモネラ、鶏痘、バストなど)を行った。

●フィールドトリップ

11月15日、グループ①、②から合計10名が、2002年秋に当団体が活動を終了したプレイコキ村と、チューティール村を訪れた。プレイコキ村では女性組合リーダー案内のもと、米銀行や鶏銀行、家庭菜園、堆肥小屋、種グループを見学した。チューティール村では最貧困支援を受けている家庭や女性組合がいつもミーティングを開いている家、そして家庭菜園を訪れた。鶏銀行や米銀行には特に関心が大きかったようで、参加者達は組合リーダー達に運営方法などについて熱心に質問をしていた。全ての見学を終えたあと、評価が行われたが、参加者達は口々に、家庭菜園が素晴らしいこと、最貧困家

庭を始め、どの訪問先も掃除が行き届いてきれいだったこと、自分達も米銀行、鶏銀行を行いたいこと、といった感想を述べた。その後参加者達は、堆肥小屋を作ったり、自宅の掃除を始めたり、また、チューティール村で見たミーティング用の机と椅子を作ったりして見学の成果を見せていた。

このフィールドトリップの報告がグループ①は 11 月 29 日に、グループ②では 26 日に行われた。病気などで参加できなかったメンバーの為、どのようなものを見学し、何を感じたかについて参加したメンバーが興奮気味にレポートを行った。どの参加者も女性組合活動に大きな関心を寄せており、見学できたことを非常に喜んでいた。

1 月 16 日には 11 月に参加できなかったメンバー、そして「もう一度訪れたい」と強く希望したプーンコー①、②の女性がサムラオン①のフィールドトリップに参加した。視察は終始和やかな雰囲気の中進められ、女性組合リーダーには多くの質問が投げかけられた。最後に、参加した女性たちは口々に「自分達も同様の活動がしたい」と話していた。

●女性グループワークショップ（プーンコー村、サムラオン村合同）

6 月 12 日、プーンコー、サムラオン村の 6 つのグループから 19 名のメンバーが参加してワークショップが開催された。これは、両村のグループが情報交換をすること、お互いがよりよい関係を構築すること、そして今後グループが合同で何らかの活動を行うきっかけ作りを目的としていた。この中で参加者達は、メンバーの脱退、家畜の病気、グループとして変化が少ないこと、外部からの批判、などグループが抱える問題について話し合った。この結果、各グループが更に結束を強めて努力していくことを確認し合い、将来的にはグループ同士がまとまって何らかの活動を行うことも視野に入れることとなった。

サムラオン村（4 村目）

サムラオン村女性グループ概要

	サムラオン村① (プーンサン地区)	サムラオン村②	サムラオン村③	サムラオン村④
メンバー数	10 名→6 名	10 名→8 名	8 名→0 名	11 名→9 名
貯蓄開始月	2002 年 8 月	2002 年 9 月	2 月	3 月
貯蓄金	毎月 1,000 リエル (約 0.25 ドル) ※1 月のみ 2000 リエル	毎月 1,000 リエル (約 0.25 ドル)	毎月 1,000 リエル (約 0.25 ドル)	毎月 1,000 リエル (約 0.25 ドル)
活動内容	鶏飼育	米のマーケティング	—	アヒル飼育
活動予定	米のマーケティング	鶏飼育	—	豚飼育→米銀行

●各グループ概要

1) グループ①

プーンサン地区と言う、サムラオン村の中でも特に貧しいエリアに結成されたグループ①は、8月より毎月1000リエルの貯蓄を継続している。このグループは、昨年度からグループ結成の動きはあったものの、なかなか結成には至っていなかった。しかしリーダーの強い働きかけで、当団体に「プーンサン地区でPLAを行って欲しい」との要望が寄せられた。これは、昨年度、当団体が村内の全女性住民を対象に行ったPLAの開催場所からプーンサン地区が離れていた為、グループを結成したいと言っているメンバーの多くがPLAに参加していなかったからである。そこで8月8日にはプーンサン地区で1日かりのPLAを行った。比較的若い女性も参加し、笑いの溢れる楽しいPLAになった。この結果、プーンサン地区から1つのグループが誕生した。このグループでは当初、豚飼育を目指していたが、貯蓄額が少なく予算不足のため、まずは鶏飼育から開始することとなった。貯蓄6ヶ月目の1月に鶏を購入しようとしたところ予算が足りず、1月のみ、貯蓄金をそれぞれ1000リエルずつ増やすことにした。鶏購入においては、メンバーから当団体に良い鶏を選んでくれるよう要望があったが、当団体スタッフがプレイコキ村女性組合の鶏銀行に見に行くようにとアドバイスをし、メンバー自らプレイコキ村に鶏の購入に出かけた。購入した鶏は一部を除いて順調に卵を孵している。今後は貯蓄を継続し、そのお金で米のマーケティングを行う予定。

2) グループ②

グループ②は結成当初まとまりがなく、一度は解散も叫ばれた。結局9月から貯蓄を開始したものの、計画段階でグループ活動を二転三転させ、グループで努力しようと言うよりは当団体に助けをもらおう、という気持ちが強いように見受けられた。ところが、ミーティングやワークショップを重ね、貯蓄金による活動内容を「米のマーケティング」と決めてからは一気に結束が強まった。「米のマーケティング」とは、米価の最も安い収穫後に貯蓄金で米を購入したりそれぞれが米を持ちより、米価が最も値上がりする収穫前にその米を販売し、利益を得る、というものである。具体的には、1月に貯蓄金で約200kgの米を購入し、各メンバーが合計約200kgの米を持ち寄った。計算によると約42000リエル(約10.5ドル)利益が上がることになる。メンバーは最も米の不足する田植え時にこの米を30%の利息(一般的な米貸し業者は100%の利息)で借りることができ、「いつもは高い利子で借りていたが、今年は助かった。」と喜んだ。今後は貯蓄を継続し、貯蓄金、そして米のマーケティングで得た収益で鶏を購入したいと言う。

3) グループ③

グループ①、②より約半年遅れて結成されたグループ③は、昨年度に開催されたPLAに参加していたメンバーが一人もいなかった。そこで11月27日、そして12月4日にはこのメンバーの為に当団体から再度PLAを行い、自分達にとって問題は何か、どのように解決していけばよいか、などについて具体的に考えてもらう機会とした。しかし、約半年後の4月には3名を除く全てのメンバーがグループを脱退し、残る3名も結局グループ活動を断念した。このグループが解散した理由としては、1. グループの意味を理解しておらず、当団体から金銭的、物質的な支援がもらえるものと期待していたが結局何ももらえず失望した、2. リーダーに対する不信感がつものった、という事が考えられるが定かではない。当団体では、グループ解散後も、個人的にメンバーと連絡を取っており、今後の当団体の活動にも参加してもらえるようにと考えている。

4) グループ④

サムラオン村で最後に結成されたグループ④のために2月26日、女性グループの意味を考えるワークショップが開かれた。女性グループの長所、短所をグループディスカッションで話し合い、グルー

プを作る意義について考えた。この結果、11 名がメンバーとして登録した。その後 2 名が貯蓄を継続することができず、グループを脱退して現在は 9 名で活動を続けている。このグループは 2 月から貯蓄を開始したが、貯蓄開始と同時にグループでアヒルを 20 羽購入、メンバー全員が餌を工面し代表者が飼育を行っていた。しかし、伝染病などでアヒル飼育は思うように行かず、半分以上のアヒルを死なせてしまった。最初は貯蓄金で豚を購入したいと話していたが、予算が少ない為、再度アヒル飼育に挑戦することになった。

●家庭菜園、栄養トレーニング

4 月 23 日、グループ①、②からそれぞれ 5 名合計 10 名のメンバーを集めて栄養講座が開催された。トレーニングでは、まず家庭菜園プログラムの開始が紹介され、その後「栄養」という言葉について確認が行われた。そして 3 大栄養素の紹介、それぞれがどのような働きをもつかについて説明が行われ、野菜や肉、とうもろこしなど、食品の絵の切抜きをつかった食品群のグループ分けをゲーム形式で行った。参加者達はゲームに歓声を上げながら、トレーニングを楽しんでいた。トレーニング終了時には、「バランスのとれた食事」について理解を深め、家庭菜園作りにも意欲を見せた。

●家畜飼育トレーニング

3 月 11 日、州家畜局草の根獣医養成員（TOT）を招いて、鶏飼育についてのトレーニングが行われた。将来的に村内で住民と草の根獣医が良好な関係を構築する為、グループ①、②から 9 名のメンバーが、そしてトレーニングのアシスタントとして各村の草の根獣医 2 名が参加した。トレーニングではこれまでの鶏飼育についての経験が話し合われ、具体的に 1. 良い鶏の見分け方、2. メンテナンス、3. 餌、4. 鶏小屋、について意見を交換した。

3 月にはグループ①、②のメンバーを集めて家畜ワクチンの効用と駆虫剤の必要性についてのトレーニングを行った。参加者達は駆虫剤、ワクチンに大きな関心を寄せ、自ら村の草の根獣医と連絡を取り、4 月には豚、鶏のワクチン接種を行うこととなった。

●フィールドトリップ

グループ①メンバーは 1 月 16 日、グループ②メンバーは 3 月 6 日にそれぞれ、プレイコキ村、チューティール村へのフィールドトリップを行った。詳細は前述プーンコー村のフィールドトリップについての記述を参照。

●女性グループワークショップ

プーンコー村女性グループと合同で行われた女性グループワークショップについてはプーンコー村の「女性グループワークショップ」参照。

ニアレット村、チュックソー村（5 村目、6 村目）

●本年度より 当団体としての活動を開始したニアレット村、チュックソー村では現在第一段階が終了したところであり、グループ発足の動きが出始めている。当初、ロムデン村、トラウク村を 5 村目、6 村目として本年度より活動開始とするはずだったが、チューティール村に隣接するニアレット村、チュックソー村が先の 2 村より更に貧しく、他団体のマイクロクレジット参入などで村人の経済が危機的状況にあると村長から陳情を受け、調査の結果、急遽この 2 村を先に着手することとなった。また、当初の予定では 11 月より基礎調査を開始し、1 月から 3 月にかけて説明会、PLA 等を開

催する予定だったが、中間報告で記した通り、2002 年の記録的少雨により、田植え、稲刈り時期がずれ込み、2003 年 3 月ようやく基礎調査が可能となった。このため、全てのスケジュールが数ヶ月後ろ倒しになっている。

ニアレット村、チュックソー村活動概要

	ニアレット村	チュックソー村
3 月	基礎調査	基礎調査
4 月	当団体活動説明会	当団体活動説明会
5 月	PLA	PLA
6 月	PLA 女性グループワークショップ	PLA 女性グループワークショップ

●基礎調査

3 月にはニアレット村、チュックソー村でそれぞれ基礎調査を行った。調査対象となったのはニアレット 221 世帯中 54 家族、チュックソー 274 世帯中 51 家族となっている。調査内容は家族状況、米の収量、米以外の収入源、財産、などで、このデータは今後の活動資料として、また活動終了後の評価の基礎資料として使用される。

●当団体活動説明会

4 月 24 日にチュックソー村で、4 月 29 日にはニアレット村で、それぞれ 当団体の活動説明会が開催された。この説明会は、女性に限らず村の全住民を対象として行われた。当団体スタッフ紹介に続いてアイスブレイキングのゲームが行われ、その後 当団体のこれまでの活動紹介、山形の紹介が写真などを用いて行われた。続いて今後の 当団体の活動予定が説明され、参加者達はゲームに歓声を上げながら視覚的ツールを用いたワークショップを楽しんでいた。最後に女性たちには PLA への参加が呼びかけられ、男性には女性たちの PLA、及び今後の 当団体活動への参加に対する理解が求められた。今回、当団体としては初めて説明会に男性の参加も促した。これは、女性の参加には男性の理解が不可欠であるとの認識に依るもので、参加した男性達は皆、妻や娘が 当団体活動に参加する事を歓迎する、と話していた。

●PLA

5 月下旬から 6 月初旬にかけてニアレット村、チュックソー村でそれぞれ 6 日間に渡る PLA が開催された。PLA の目的は、当団体としての本格的活動を前に、村の女性たちが村の過去、そして現状を理解し、自分達の手でどのように村の状況を改善していくのか（未来）について考えてもらうことを目的としていた。具体的には、村の地図、村の歴史図、女性たちの日課、村の問題とその解決、そして将来の夢について、視覚的ツールを用いながら村人達自身に考えてもらった。PLA の内容は以下のとおりである。

1) 村の地図

4～5 人の小グループに一枚ずつ模造紙が渡され、自分達の村について地図を描いてもらう。地図に描く内容はグループごとに自由でだが、ほとんどのグループが道から描き始め、自宅、田圃、水路、寺、学校、市場などを描いていった。こうした地図から、参加者の生活範囲、生活の中で重要な物、場所、問題視している場所などを見て取ることができる。参加者が作成し

た地図から、村の中にある林は治安が悪く 1 人で近づかないほうが良いこと、泥棒が多いエリアがあることなど治安状況がわかったほか、土地の高低による米の出来高の違い、井戸が不足していることなどを参加者がそれぞれ確認しあっていた。

2) 村の歴史図

昨年度、プーンコー村,サムラオン村で行った村の歴史 PLA では、文字を用いて歴史事項を表現したが、今回から歴史を絵であらわすこととなった。まず、参加者に大きな時代区分を考えってもらう。参加者が思いついた時代区分は 1. シアヌーク時代、2. ポルポト時代、3. ロンノル時代、4. UNTAC 以後、という 4 つで、グループに分かれたあと、それぞれの時代のシンボルが決められた。グループでは各時代に起こった出来事を話し合いながらその出来事を絵で表現していった。参加者の中には高齢の女性も混じっており、各グループに最低 1 人は入ってもらえるように心がけた。これまで村の昔の姿について話を聞く機会のなかった若い女性たちにとっては多くの発見があったようである。

3) 女性たちの日課

自分達がどのように一日を過ごしているのか、これまでに思い起こしたことのある村人は少なかったようである。「女性たちの日課」では、雨季,乾季、それぞれの季節における女性たちの一日について、グループごとに絵で表して発表してもらった。農閑期となる乾季は農繁期の雨季よりも、自由になる時間があるようだが、それでも朝から晩まで働き通しの女性がほとんどである。また、一日のほとんどを食事の準備と後片付けにおわれており、参加した女性たちは改めて自分達の時間の使い方について話し合っていた。

4) 村の問題

小グループに分かれ,村にどのような問題があるのか、まずはブレインストーミングで挙げてもらう。お米が取れない、水がない、食べ物が十分でない、家庭内暴力がある、など多くの問題が挙げられた。その後,それらの問題の相関関係について考えてもらう。たとえば、食べ物が十分でないのはどうしてかと考えると、お米が取れないからであり,どうしてお米が取れないかと考えると水が不足していたり、米に病害虫がついて収量が低かったりするからである。こうして問題について整理することによって,まずどの問題を解決すればいいのかと言うことを参加者は理解していた。

5) 問題の解決

前回挙げてもらった問題を基に、自分達が何をどのように努力していけば少しでも状況が改善されるのかについて考えてもらう。現在の状況を 0 とし、最高の状態を 10 とした場合,どのくらいまで状況を変化させることができるのか。例えば家畜が病気になる,という問題については、きちんとした餌を与える,小屋で飼育する,衛生状況を向上させる、という自分達の努力である程度は改善できる。また、当団体がトレーニングを行うなど,外部からの働きかけにより、更に状況を改善することができるだろう、ということである。

6) 村の夢

5 回の PLA を踏まえた上で、村を将来どのようにしていきたいか、について参加者に絵を書いてもらう。その結果、豊かに稲穂の垂れた田圃、青々とした野菜、丸々と太った家畜、立派

な寺、人々は村の中を走る立派な道をオートバイで往来し、歌って踊って楽しく暮らす・・・という「夢」が出来上がった。単に夢を描くだけでなく、どのようにしてその夢を手に入れるのかについても話し合いが持たれ、まずは家庭菜園や家畜飼育でお金を貯め、貯蓄をして・・・とかなり具体的な計画も立てられた。農繁期にもかかわらず6回通して出席した、という女性も多く、参加者はPLA、そしてPLAの前に行われるアイスブレーキングのゲームを楽しみにしていたようである。このPLAで参加者が話し合い、作成した表や絵は、女性グループワークショップを始め、折に触れ使用されることになる。

●女性グループワークショップ

6月下旬には女性グループワークショップが各村3箇所ずつ、合計6回にわたって開催された。このワークショップの目的は、女性グループ活動の目的と、具体的事務手続き等について村人が理解することにあった。まずはPLAの復習を用いて、村の抱える問題を解決するにあたって、グループで解決する際の利点と家族で解決する際の利点についてディベートを行ってもらった。その後グループとはどういうものか、どのように登録すればよいのかを村人達の意見によって決定し、具体的な手続き方法を参加者全員で確認する。このワークショップの後にはグループ結成となり、その後グループによる貯蓄が始まることになる。

【援助事業の効果】

村の女性たちと話をしていると女性たちの中での「変化」を感じる。一つは以前に比べて自分に自信を持てるようになったように見受けられること。もう一つは、以前に比べて非常に明るく、前向きになった人が多いということ。これは、当団体が来るまで近所の人とも会話しなかったと言う閉鎖的の社会に住んでいた住民が、様々な人々と出会って話をすることによって受ける刺激、つながりが増えることによる安心感、そして周囲に自分という存在が認められることから得られる自信などによって培われたものだと考えられる。

人間、気持ちに余裕が出てくると周囲に気を配ることもできるようになってくる。特に女性組合プロジェクトを3年近く行ってきたチューティール村のリーダーにこの傾向は顕著であり、こうした傾向が、徐々に一般組合員にも広がり始めている。

女性グループ活動を行っているプーンコー村、サムラオン村でもグループメンバーは早い段階から当団体抜きでも様々な取り決めを行ったり、計画を行動に移していく能力を得たりしている。そうした自信からか、メンバー達は主体的に、活発に活動しており、今後の更なる変化が楽しみである。

<2村目：チューティール村>

チューティール村では当団体による活動も終盤を迎え、女性組合リーダーは当団体抜きで様々な活動を行えるようになってきている。月例会議はこれまでどおり毎月開催しているが、全て自分達でプログラムを考え、当団体が参加しなくてもきちんと会議を開いている。また、米銀行についても、誰に促されるわけでもなく自らミーティングを開催し、規約も作成した。これは当団体が一村目、プレイコキ村で得た経験から、女性組合が早いうちから独立して活動を行えるようアプローチを変更したことと共に、先輩格であるプレイコキ村の存在が大きく影響しているものと思われる。

2月に行われた女性組合リーダー改選では組合設立当初からリーダーを務めてきた10名が再度名乗りをあげた。しかし結果は7名が再選、3名が落選する、という厳しいものだった。ただし、落選したリーダーを見てみると、組合のためにあまり働いてこなかった女性ばかりで、それまでリーダーとして熱心に活動してきた7名の当選者と比較しても、結果は致し方ないといえる。この選挙の結果を見る限り、組合員達は、組合のために熱心に働くリーダーとそうではないリーダーをきちんと見極めており、組合活動をより活性化してくれるリーダーを理解している。

家庭菜園ボランティアの中から選出された5名の普及員は、今年度2度のトレーニングを組合員対象に開催した。昨年度開催された第一回目、第二回目のトレーニングでは、ボランティアは、自分達がトレーニングを受けた後、比較的すぐに組合員に対するトレーニングを開催していたが、本年度の第三回目、第四回目のトレーニングは普及員がトレーニングの内容を消化する期間を設け、トレーニングで受けた知識を他の組合員に教えることができる自信がついてから、全組合員対象のトレーニングを開催してもらうことにした。第一回目、第二回目のトレーニングでは説明に拙いところも見受けられた普及員たちだが、第三回目、第四回目ともなると自信もつき、ポスターなど、準備も入念になっていた。四回のトレーニングを通して、組合員達が家庭菜園の知識を得たことはもちろんだが、それ以上に、普及員たちが自信を深めたことが評価できることであろう。

家畜普及を目的とした貯蓄プログラムも昨年度からの継続事業であり、本年度は3グループ、16名が貯蓄を継続しており、無事家畜を手に入れることができた。このプログラムに参加した組合員は88名であるが、その多くが現在もグループで貯蓄を継続していると話してくれた。貯蓄金をどのように使うつもりなのかは定かではないが、クレジットが横行している昨今、こうした貯蓄の習慣が根付くことは非常に重要なことである。

最貧困家庭支援プログラムで支援を受けた村人達の中には、既に開始したアクティビティを終了してしまった村人もいるものの、本年度も継続して支援を受けている村人の多くは、順調に活動を継続している。昨年最貧困家庭支援で受けたクレジットで野菜の種を購入し、育てた野菜を販売している女性は、そのお金で、井戸から汲んだ水をためておく水がめを購入した。今年もやはり野菜の種を購入し、乾季も家の敷地外の井戸から朝晩20往復ずつ、水を運んで野菜を育てていた。昨年の支援から、女性組合リーダーの勧めでお菓子作りを始めた女性は、気持ちが前向きになり、次々新しい活動を始めている。それにつられて家族も彼女を助けて働くようになり、全てがうまく回り始めたように見受けられる。クレジットという支援方法については、スタッフの間でも賛否両論あったが、少なくとも支援を受けている村人の中には、いわゆる「貧困の悪循環」を断ち切るきっかけを掴みかけている人もいようである。

米銀行については昨年度からじっくりと計画を練ってきた。米倉建設や米の購入にあたっては、先輩となるプレイコキ村女性組合リーダーからアドバイスを受け、「身の丈にあった」米銀行が出来上がった。米が不足しがちな田植え時期は、米の値段も高騰し、一般の米貸屋で米を借りると100%の利子を取られる。今年、女性組合の米銀行から25%の利子で米を借りることができた組合員達は一様に米銀行誕生を歓迎していた。

こうした功績からか、当初女性組合の活動に懐疑的だった村人達も、今では組合の存在を受け入れているようである。貯蓄プログラムにトータル88名もの組合員が参加したこと、女性組合リーダー

選挙への投票率が 8 割を越えていることなどが、こうした村人の気持ちの変化を表していると言えるだろう。

<3 村目：プーンコー村、4 村目：サムラオン村>

プーンコー村、サムラオン村では着実にグループ間の相互扶助精神が根付きつつある。グループ内での相互扶助は比較的早い段階から出始めており、貯蓄金の貸し出しの他、プーンコー②のリーダーのように、外部からの助けが不可欠なときには、物質的支援を行うセーフティーネットの役割を果たすと共に、精神的支えにもなっていることがわかる。

グループ内の結束だけではなく、グループ間の交流も盛んで、グループの枠、あるいは村の枠を超越しての連帯感が芽生えつつある。これはトレーニングやフィールドトリップで複数のグループが同時に集う機会が多いことや、グループワークショップで 2 村のグループメンバーが話し合う機会を設けたことによる効果と思われる。プレイコキ村やチューティール村の女性組合を視察して刺激を受け、グループの枠を取り払って何かできないかと言う動きも出てきており、今後の活動が注目される。

学習の機会の一環として行っている家庭菜園、栄養基礎トレーニングにも一定の効果を見ることが出来る。グループメンバーは雨季に入り、個人やグループで家庭菜園を作り始めており、プレイコキ村、チューティール村で見た堆肥小屋を設置した家庭も多くある。

同じく学習の機会で行った家畜飼育についても、参加者は餌の内容や、雛を成鶏と離して餌やりをすること、メンテナンスなど、新たな知識を得た。特にワクチンに対する関心は高く、プーンコー、サムラオンのグループメンバーとも、ワクチン接種を強く希望している。4 月のワクチン接種でサムラオンのグループメンバーは、自ら村の草の根獣医と連絡を取っていた。このように 当団体の力を借りずともやりたいことを行動的に実践する様子を見ていると、グループメンバー、リーダー達はかなり自立していることがわかる。

<5 村目：ニアレット村、6 村目：チュックソー村>

まだグループ結成の準備段階にある両村であるが、特に PLA に参加していた女性が非常に元気になっているようである。6 月に開催された女性グループ結成の為のワークショップに於いて、PLA に参加していた女性、参加していなかった女性ではその様子に差が見られた。例えば、参加していた女性は、積極的に発言しており、グループディスカッションに入ってから、リーダー的存在として話し合いの牽引役を勤めた。これは、6 回シリーズで開催された PLA に参加することで、考えること、発言することに慣れてきたためと考えられ、自分自身に自信を持ち始めているのではないかと思われる。

【今後の課題】

チューティール村は本年秋に 当団体としての活動開始から丸 3 年を迎え、いよいよ自分達の足で歩み始める。本年度 当団体の活動を終了したプレイコキ村女性組合は、現在のところ順調に機能しており、リーダーや組合員のモチベーションも維持していることなどから、チューティール村においても事業を継続していってくれるものと予想している。3、4 村目であるプーンコー村、サムラオン村は活動開始から 1 年以上を経過したグループも出始め、更に新たな、そして大きな活動を目指したいと言う女性たちが増えている。このため、今後はグループ活動を継続しつつ、グループを集めた「組合」のよ

うなものを結成してはどうかという話も出始めている。5、6 村目であるニアレット村、チュクソー村はまだ活動を開始したばかりであるが、ワークショップ、PLA を見る限り、当団体の活動に興味を持っている女性が多いようなので、まもなくグループが結成され、2004 年早々にもグループ活動が開始される見込みである。

<2 村目：チューティール村>

現在では女性組合開始当初から懸念していたような、組合リーダーと、組合活動に懐疑的な村人との確執は殆ど見られなくなっている。但し、一村目、プレイコキ村のような、村全体の盛り上がり欠ける点は否めない。多くの組合活動が、一部の組合員のみによって行われており、おそらくこの状況を改善することは不可能ではないかと思われる。ただ、前述のように、村人全体の理解は得られ始めており、今後興味を持った村人、もしくは組合員のみを主なターゲットとした活動となっても、大きな問題ではないだろうと思われる。

また、これも昨年度からの継続した課題であったが、チューティール村の女性組合活動は独自のアイデアに乏しいようにも見受けられる。新たなプログラムである米銀行、鶏銀行、種グループ、どれをとっても一村目のプレイコキ村と同じ活動であり、プレイコキ村と同じことを、同じようにやりたがる傾向はどうしても抜けない。もちろん同じ活動が必要とされることも多いのだが、チューティール村とプレイコキ村では村人の置かれている環境、状況も異なり、チューティール村の住民だからこそ必要としているものもあるはずである。こうした声に耳を傾け、将来、プレイコキ村にはないまったく新しい活動を作り上げていくことができるのかどうか心配が残る。

もう一点心配なのは他 NGO によるクレジットプログラムの拡大である。昨年、チューティール村の中を通る道路が改修され、村へのアクセスが非常に良くなった。この影響で、多くの NGO がチューティール村を始めチューティールコミュニティの村々で活動を始めた。こうした NGO のほとんどがクレジットプログラムを行っている。NGO とはいえ、かなりの高利で金を貸し出す団体ばかりで、月々最低 4% 程度の利子を払わなければならない。中には 6 ヶ月間返済不可、という団体もあり、例えば 100 ドル借金をすれば自動的に 24 ドルの利子を支払うことになる。24 ドルは、一日働いてようやく 1 ドルもらえるかももらえないか、という村人にとって非常に大きな金額である。一度こうした借金を抱えると、利子を払う為にまた新たな借金をし、更にその借金が借金を生むことになる。貯蓄プログラムなどで根付き始めた貯蓄の習慣も、いったん借金地獄に陥ると、簡単に崩れてしまうものである。借金返済のために都市へ出稼ぎに行かなければならない村人も増えることと思われ、当団体が最大の目標として掲げている「ホームレス化防止」という大前提も壊れかねない。村人の中には、既に借金地獄に陥り始めている人もおり、女性組合はこうした村人の声を拾い上げながら、注意して見守っていかなければならない。

<3 村目：プーンコー村、4 村目：サムラオン村>

女性グループ活動は、女性組合活動で懸念された「持続性」を更に確実なものにしようと組合活動に変わって取り入れられた。こちらの計画どおり、プーンコー村、およびサムラオン村では、女性組合プロジェクト実施時と比較して、速いペースで自立できている。この「自立」は、例えば 当団体に頼らずとも村の草の根獣医と連絡を取ったり、ミーティングに於いても積極的に発言したり、といったメンバーの様子からも見て取れる。当団体が去ったあとも活動を継続できるという意味で、この自立は重要な役割を果たす。

しかしながら、「持続」という面をとりあげると、可か否か疑問が残る。女性グループ活動では 当団体から資金的援助は一切行わない、と決めており、その方針は最初のワークショップの段階から村人に伝えられていた。しかし、それでも 当団体が何かをくれるのではないか、という期待を持ってグループに入る女性は多く、最後までこちらが意図したグループの意味が伝わらないメンバーは、結局「当団体は何もしてくれない」と不満をもってグループを脱退していく。

グループの意味をよく理解していても、一月 1,000 リエル (0.25 ドル) 程度の貯蓄ではグループメンバーの生活に変化が起きにくい。つまり、鶏飼育を始めたからと言ってすぐに劇的に生活状況が良くなるわけではなく、こうした点に不満を抱きグループを辞めていったメンバーもいるようである。貯蓄金だけでは大きな活動が行えない、というのが現状である。

実際、貯蓄金で行うアクティビティーは、鶏飼育や豚飼育など、個人的利益のみにつながるようなもので、女性組合のように「村の人の為に、貧しい人の為に」という他人の為の活動には至っていない。確かに自分がせっせと貯めた貯蓄金で何か活動を、というときに自分以外の人利益になるような活動を提案してくるとは考えにくく、グループ活動として貯蓄金で行うアクティビティーは個人の為に、となるのは致し方ない。しかしその分、グループ外の人からの理解が得にくいことは確かであり、「当団体は何もしてくれないのにどうしてグループを作るのか」と批判的な村人もいると聞く。

村全体を見回すような、「他人の為のアクティビティー」を考えると、資金を村人の貯蓄だけに頼ることには無理がある。現在、グループの枠を越えた活動への動きが出始めており、グループメンバーが寄り集まって、新たに「女性組合」を設けることができないのか現在可能性を模索している。

<5 村目：ニアレット村、6 村目：チュックソー村>

5 村目、6 村目ではまだグループもできておらず、今後の課題といっても特記すべきことは殆どない。ただ、これはプーンコー村、サムラオン村の女性グループ活動で学習したことであるが、「当団体はファシリテーターのみ。物もお金もあげない」という基本的な 当団体の活動方針を村人によく理解してもらう必要がある。

3 現地の人々の反響・意見

チューティール村女性組合組合員インタビュー

実施日：2003 年 8 月 21 日

1) スン・オーン (家庭菜園普及員①)

50 歳。夫と娘 1 人、息子 3 人、そして娘一家 3 人の 9 人暮らし。敷地内に住む娘夫婦と食事は一緒に取る。以前から野菜作りに興味があり、きゅうりやさとうきびを作って現金収入にしていた。現在は自家消費に重点をおいており、空芯菜、豆やハーブ、パイナップルなどを作っている。今年は小規模で、乾季も継続できる菜園についてアドバイスを受け、池の近くに小さな菜園をつくった。おかげで今年は乾季もそこで野菜作りを継続し、自家消費分はまったく問題なく自給することができた。家畜についての知識も得て、娘一家は現在簡単な豚舎を作りそこで豚を 2 頭飼っている。その豚が大きく育って売れば、売上金を使ってもう少し立派な豚舎を作る予定にしている。

2) エイン・ナエム (家庭菜園普及員②)

41歳。夫と娘の3人暮らし。息子は1人プノンペンで出稼ぎ中。毎年収穫後は全ての米を売却して借金を返していたが、今年は自家消費分を残すことができたという。夫は伝統楽器の演奏者だが、以前はプノンペンで日雇い労働をしていた。ところが2001年ごろから一年を通して村に在るようになり、当団体のトレーニングで習ってきた家庭菜園、家畜飼育など、自宅での収入向上活動を手伝ってくれるようになった。お米の収穫が順調だったほか、こうした要因が収穫した米を全て売却せずに済んだ要因ではないか。今後は家畜小屋を利用して、もっと家畜をたくさん飼えるようになりたい。

3) オーク・サレン (最貧困家庭支援受益者)

54歳。夫と娘の3人家族。以前は田圃を所有していたが、家族に病人が出たため、その土地を担保に借金をした。結局その借金を返済できず田圃を失った。その後はずっと日雇いで働いている。夫は病気がちでほとんど働くことができず、また働く意欲も失って行った。2002年に女性組合で最貧困家庭支援が開始され、自分もその支援を受けるようになった。30,000リエル(約7.5ドル)を借り入れ、女性組合リーダーのアドバイスでお菓子を作って売ることにした。毎日1,000リエル程度の収益が上がるようになり、そこから少しずつ生活も良くなっていった。これまでは何かあったときに助けを求めようと親戚の敷地内に住んでいたが、自分の家庭菜園を始めたいと考えて、自分の敷地に戻った。今は家の周りにキャッサバ、豆、バナナを植えている。最貧困支援を受けて活動を始めたころから夫も非常に協力的に働くようになり、家庭菜園の手入れは夫と二人でやっている。鶏も飼い始めた。今が自分の人生の中で一番良い時だと思う。